

第6 学年社会科学学習指導案

対象 6年1組 32名
授業者 高岡 幸子
対象 6年2組 33名
授業者 高橋 沙知
対象 6年3組 33名
授業者 蓮田 光幸

1 単元名 新しい日本へのあゆみ

2 単元の目標

戦後の日本国憲法の制定や国内産業の発展、世の中の様子などに着目して、日本が民主的な国家として発展し国際社会に復帰したこと、産業の発展により国民生活が向上したこと、アジアで初めて東京オリンピック・パラリンピック大会が開催され、スポーツを通じた世界平和の実現に貢献してきたことなどを調べ、戦後、我が国は民主的な国家として出発し国民生活が向上し、国際社会のなかで重要な役割を果たしてきたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、歴史の学習を未来に生かそうとする態度を養う。

3 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①我が国の戦後復興について、日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などに着目して調べ、戦後、我が国は民主的な国家として出発し、国民の努力により国民生活が向上して、国際社会のなかで重要な役割を果たしてきたことを、写真やグラフ、図など各資料の活用を図り、理解している。	①日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などに着目し、我が国の政治や人々の生活の変化をとらえ、我が国が国際社会のなかで果たしてきた役割について考えるとともに、調べたことや考えたことを表現している。 ②今日の我が国の課題を踏まえ、未来の自分たちに期待される役割について考え、表現している。	①日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦後の世の中の様子に着目し、予想や学習問題、学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりしている。 ②近現代の歴史学習を振り返り、考えてきた学習問題から新たな学習問題を見付けようとしている。 ③今の自分たちの生活や社会と結び付けながら、現在の課題について何ができるのか、自分事として深く考えようとしている。

4 研究主題に迫る工夫や手だて

(1) 主体的に学び続ける児童の育成のために【見通すことについて】

① 児童と作る学習計画

単元の始めには、その単元学習にまつわる歴史資料を提示し、児童の気付きや疑問を学級で出し合い、話し合いをもちながら学級の学習問題を作成する。その学習問題に対して、見通しのもてる範囲で児童と共に学習計画を立て、それに沿って学習を進めていくことを年間を通して行ってきた。本単元では、歴史学習の総まとめとして、様々な観点で歴史を捉えた上で、気付きや疑問をもとに学習計画が立てられるようにする。

② 見通しの視覚化

- ・単元の始めに作成する学習計画表を教室内に掲示し、児童が常に単元のどこの何を学習しているか見通しをもてるようにする。
- ・授業1時間や単元全体の見通しをもつための「つかむ」「調べる」「まとめる」「共有する」「深める」「生かす」という学習の流れを表示し、活動内容の流れが大まかに分かるように共有する。

③ 教科の特性、発達段階に合わせた工夫

- ・第6学年の社会科の歴史学習の単元の始めに設定されている「日本のあゆみ」では、歴史について知っていることを児童からたくさん聞き出し、児童の言葉から、教師が意図的に5つの観点にまとめた。年間を通してこの5観点を中心に学習していくことを確認した。

- | | |
|---|-------------------|
| ア | 人々の暮らし（衣食住） |
| イ | 文化（より暮らしが豊かになるもの） |
| ウ | 政治 |
| エ | 外国とのつながり（外交） |
| オ | 人物 |

学習が進むにつれて、観点が重なるような場面があったり、新しい観点が出てきたりすることもある。例えば、「経済」「産業」「技術」「教育」などが出てきた。これらは、児童の考えに応じた観点となるため、学級ごとに少しずつ言葉が異なる。この観点は分類することに重点を置くのではなく、歴史の学習を考えやすくするものとして提示するため、児童と柔軟に観点を考えながら設定していった。

- ・時代区分の年表を学年スペースと黒板に貼り、今、学習している時代、これからどの時代の学習をするのか分かるようにした。また、時代区分の歌をつくり、導入時に歌うことで、大まかな時代の流れを捉えながら、歴史の学習に向かうことができると考えるようにした。

(2) 主体的に学び続ける児童の育成のために【振り返ることについて】

① 振り返りの観点を踏まえた話形や項目の提示

1. 学習内容の確認	分かったこと（知識・技能）【概念・操作・習熟】
2. 学習内容を現在や過去の学習内容と関係付けたり一般化したりする	もっと知りたいこと（思考・判断・表現等の力）【活用】 今日の学びのつながり（主体的に学習に取り組む態度）【関連付け】
3. 学習内容を自らとつなげ自己変容の自覚する	できるようになったこと（主体的に学習に取り組む態度）【自己変容】 学び方・方法（主体的に学習に取り組む態度）【学び方の自覚】

本単元では、本校の振り返りの観点で示している5つのうち、「今日の学びのつながり」「もっと知りたいこと」「学び方、方法」の3つに絞って振り返ることに重点を置いた。歴史学習の最後であるため、前の時代や現在の日本の状況などと学びをつなげながら考えることのできる児童を育成したいという願いを込めている。基本的には、自分なりの振り返りが書けるようになるのが目標であるが、次時に見通しをもつための教師の意図的な視点で振り返らせる場合もある。

② 振り返りのしかたとタイミング

振り返りながら学ぶ“きづぎもん”という活動を設定した。学習していく中で、「気付いたこと・疑問に思ったこと」（きづぎもん）をノートにメモしたり、教室後方のホワイトボードに書き溜めたりしていく。児童が出したきづぎもんは、授業の中で取り上げ、学級全体で共有し、考えたり話し合ったりする時間をとって、次時以降の学習に活用できると考えた。単元の節目や終わりなど、学びを十分に得てから行うことで、児童の学びの振り返りを充実したものにする。

(3) 主体的に学び続ける児童の育成のために【共通することについて】

① e ポートフォリオの活用

- ・歴史学習全般を通して、一言で時代を表す活動（ラベリング／キャッチコピー）を行う。学習した時代について、単元の途中や終わりに、その時代の特徴を端的に表現する。個人で作成した時代の一言は、学級全体でスプレッドシートを用いて共有し、それを用いて、調べた内容をスライド（My 歴史ノート）にまとめることとし、自分なりに時代ごとのキーワードを選びながら工夫して表現する。この活動により、その時代を自分の中で整理しながらまとめることができ、学習の振り返りになる。さらに、今までの時代とつなげたり、次の時代がどのようになっていくかの予想や疑問をもつきっかけとなったり、次の学習への見通しになったりする。時代ごとにまとめた一言とスライドが、中学校でさらに詳しく歴史の勉強をする際に、自分の歴史辞典のようなものとなり、活用できると考えた。

- ・単元の中で学習した活動（「きづぎもん」や話し合い活動など）の内容は、タブレット端末上に適宜保存する。個人だけでなく、学級でも蓄積したデータを全体で共有できるようにする。

5 単元の指導計画と評価計画（全10時間）

次	時	・主な学習活動	○指導上の留意点	◇評価規準
1	1	・終戦直後の様子をグラフや資料から調べる。	○空襲で焼け野原になったまちの写真や終戦直後のまちや人々について気付きを引き出し、当時の人々の暮らしへ関心を高める。	◇戦争直後の世の中の様子などについて、写真や年表などの資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、理解している。 【知・技】ア-①
	2 (1組)	・前時の学習を振り返り、終戦直後の時代から豊かなくらしになるまでの変化について考え、予想し、学習問題をつくる。 ・予想をもとに学習の見通しをもつ。	○終戦直後から現在までの時間的な経過に着目させ、この間にどのようなことがあったか予想する。 ○グループごとに学習問題を考え、単元の最後にどんな活動で学習をまとめるのかを決定し、単元学習の見通しをもつ。	◇戦後の日本の様子と現在とを比較する活動を通して、復興できた理由を予想し、学習問題を考え、学習の見通しをもつことができる。 【主】ウ-①
戦後、日本は、どのようにして急激に復興したのだろうか。				
2	3	・新しい国づくりのための改革について調べ、日本は平和で民主的な国家を目指したことを捉える。	○戦争中の教科書と戦後の教科書を見比べ、黒く塗られている理由を考えさせ、終戦直後の日本がどのような国づくりをしたのかについて問題意識をもたせる。 ○大日本帝国憲法と日本国憲法を比較し、民主的で平和な国づくりへの強い意志や願いを読み取らせる。	◇新しい国づくりのための改革について調べ、日本は平和で民主的な国家を目指したことをとらえ、日本国憲法が定められたことを理解している。 【知・技】ア-①
	4 (3組)	・日本は、どのようにして国際社会に復帰したのか考える。	○日本国憲法や日米安全保障条約の戦争と軍隊に関する内容を簡潔にまとめた資料から、内容を比較しやすくする。 ○資料から、各国の考え方の違いに気付かせる。 ○アメリカと日本の両方の立場で、当時の国際情勢を手掛かりに急いだ理由を考えるよう助言する。	◇東西冷戦の対立の下で、日本はアメリカとの関係を深めたことを理解している。 【知・技】ア-① ◇アメリカが日本との講和を急いだ理由について考え、表現する。 【思・判・表】イ-①

3	5	・教科書の写真や本文をもとに発展した日本の産業や人々のくらしの変化について調べる。	○工業生産額の急激な変化に着目させ、なぜ発展できたのか疑問を膨らませる。 ○国産車の普及などから、技術力を高めて品質の良い工業製品を大量生産した日本国民の工夫と努力に気付かせる。 ○住宅や生活道具の変化が、どのようにくらしの変化につながったのか終戦直後と比べさせる。	◇発展した日本の産業や人々のくらしの変化の背景についてグラフや資料から考え、日本の高い技術力や人々の努力があったことを理解している。 【知・技】ア-①
	6	・国際社会と日本との関わりについて調べる。	○オリンピックは、日本にとってどのような大会だったのかを考えさせる。 ○戦時中や終戦直後の日本を想起させて、国際社会の日本を見る目がどのように変わったのかを考えさせる。	◇国際社会における日本の役割について、振り返りをふまえて、自分の考えをまとめ、表現している。 【思・判・表】イ-①
	7	・これまでの気付きや疑問に対する答えについて調べ、今までの学習内容をまとめる。	○個々のラベリングをもとに、学習内容について、スライドなどを用いてまとめさせる。	◇これまでの学習内容をもとにスライドにまとめる。 【知・技】ア-①
	8 (2組)	・前時でまとめた学習内容をグループやクラスで共有し、まとめる。 ・今の世の中における課題について考え、新たな学習問題をつくる。	○時代をまとめる上での観点や今の自分たちの生活とつながっているかどうかの根拠をもとに話し合うよう示す。 ○日本国内の身近な課題から、自分たちが考える問題だという意識をもたせる。	◇近現代の歴史学習を振り返り、考えてきた学習問題から新たな学習問題を見付けようとしている。 【主】ウ-②
	未来の社会をよりよくするために、わたしたちができることや役割は何だろう。			
	9	・国際社会や戦後、経済的に発展してきた日本に残された問題について調べ、国際社会の一員としてこれからの日本について考える。	○領土、領海などについて、いまだに解決できていない課題があることを押さえる。 ○SDGsの目指す目標や世界中で取り組むべき課題を確認し、それを実現するための方法へと問題意識を高めさせる。	◇我が国が国際社会の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解している。 【知・技】ア-①

1 0	・前時でもった、自分の考えを互いに発表し、共有する。 ・単元全体を振り返り、まとめる。	○歴史学習のまとめという位置付けとともに、「世界の中の日本とわたしたち」の学習へとつながる学習であることを意識させる。	◇今日の我が国の課題を踏まえ、未来の自分たちに期待される役割についての考えを表現している。 【思・判・表】イ-② ◇今の自分たちの生活や社会と結び付けながら、現在の課題について何ができるのか、自分事として深く考えようとしている。 【主】ウ-③
--------	--	--	---

6 本時の指導①（ 2 / 1 0 時間 6 年 1 組）

（１） 本時の目標

戦後の日本の様子と復興した日本を比較する活動を通して復興できた理由を予想して、学習問題を考え、学習の見通しをもつことができる。

（２） 本時の展開

時 間	学習活動	○指導上の留意点 配慮事項 ◇評価
導 入 5 分	1. 資料から前時の学習の振り返りをする。	○前時の振り返りから、終戦直後の日本の様子を思い出させる。
	資料や気付きをもとに学習問題を考え、学習の見通しをもとう。	
	2. 2020年から20年ごとにさかのぼり、街の様子の変化を捉える。	○1945年と1964年の資料を提示し、街の変化が大きいことに気付かせ、疑問をもたせる。
展 開 3 5 分	3. 気づいたことをもとに学習問題を考える。 ・19年しか経っていないのに、どうしてだろう。	○これから1945年と1964年の間を中心に学習することを確認する。
	戦後、日本は、どのようにして急激に復興したのだろうか。	
	4. 学習問題について予想し、共有する。 ・憲法ができたから ・外国の技術が伝わったから	○いろいろな見方ができるような資料を提示する。 ○疑問や明確にしたいことは教室後方のきつぎもんボードに書き込ませる。 ○最初は個人で予想させ、その後グループで共有し、全体にも共有させていく。予想するときに、どの観点から考えたのかにも着目させる。
	5. グループごとに学習問題をつくり、全体で共有する。	○どの観点で学習問題をつくったのかを考えさせる。 ◇戦後の日本の様子と復興した日本を比較する活動を通して復興できた理由を予想して、学習問題を考え、学習の見通しをもつことができる。
	6. 単元のゴールを決め、学習の見通しをもつ。 ・最後の単元なので、これからについて話合ってみたいな。 ・年表にしてスライドにまとめてみたいな。	【主】ウ-①（ノート・発言・観察） ○歴史学習の最後単元ということ意識させる。 ○児童主体の単元のゴールや学び方の決め方は、今まで経験してきた方法（話し合い・クイズ・スライドまとめ）で児童主体で決めさせる。

終 末 5 分	7. 本時の学習振り返りをし、次時以降の内容を確認する。	○予想をみて、自分だったらこう思うという観点で振り返りをさせる。
------------------	------------------------------	----------------------------------

本時の指導（ 4/10時間 6年3組）

（１）本時の目標

サンフランシスコ平和条約と日米安全保障条約について調べ、東西冷戦の対立の下で、日本とアメリカの関係が深まったことを理解し、アメリカが日本との講和を急いだ理由について考え、表現することができる。

（２）本時の展開

時間	学習活動	○指導上の留意点 配慮事項 ◇評価
導入 8分	1. 前時での学習を振り返り、当時の世の中の様子を想起する。 2. 資料を提示し、基本的なことを伝え、うえで、本時のめあてを立て、見通しをもつ。 3. めあてを捉える。	○調印の様子について確認する。 ○サンフランシスコ平和条約の内容について確認する。
	日本と外国との関係はどのようなになっていったのだろう。	
展開 32分	4. 教科書を使って調べる。（きづぎもん） ・教科書をノートにまとめる。 5. 調べたことを共有し、めあてに迫る。 ・子供たちが黒板に書いたことを分類し、整理する。 ・黒板に書かれた言葉の中にある、キーワードをもとに学習内容をまとめる。 ・サンフランシスコ講和会議 ・東西冷戦 ・国際社会に復帰 6. 気付きや疑問について考える。 ・ホワイトボードに書かれたきづぎもんについて考える。	○前の黒板には調べたことを、後方ホワイトボードには気付きや疑問を書くように児童に促す。 ○きづぎもんを出す中で、冷戦を示した世界地図について触れ、日本と世界の関係に疑問をもたせる。 ○児童が出したキーワードをもとに、学級全体でまとめを考えていけるようにする。 ◇東西冷戦の対立の下で、日本はアメリカとの関係を深めたことを理解している。 【知・技】ア-①（ノート・発言） ○気付きや疑問（きづぎもん）の中で、めあてに迫るものや気付いてほしいことを取り上げ、考えさせる。 ◇アメリカが日本との講和を急いだ理由について考え、表現している。 【思・判・表】イ-①（ノート・発言・観察）
終末 5分	7. 本時の学習の振り返りを確認し、次時へ見通しをもつ。	○次の学習へつながりそうな児童の発言に触れて、見通しをもたせる。

本時の指導③（ 8 / 1 0 時間 6 年 2 組）

（１） 本時の目標

本単元で学んだ戦後の日本のあゆみについての学習内容をまとめ、現在の日本の現状についての課題を考えた上で、新たな学習問題を立てることができる。

（２） 本時の展開

時 間	学習活動	○指導上の留意点 配慮事項 ◇評価
導 入 5 分	1. 前時までの学習を振り返り、本時のめあてをもつ。 戦後の学習を振り返り、歴史学習のまとめをしよう。	○前時に個人で時代のまとめ学習（キャッチコピーとスライド作り）を行ったことから、グループや学級全体で単元をまとめるという計画を確認す
展 開 3 7 分	2. 個人のキャッチコピーを持ち寄り、各班の観点ごとに単元の学習内容をまとめる。 3. 観点ごとに、グループの考えを全体で共有する。 4. 単元全体を振り返り、歴史学習全体の学びを踏まえて、今後の日本の未来について考える。 【問題】・争い・国際社会・人口問題 ・食糧問題・人権 など 【良さ】・技術の発達（医療／AI／テクノロジー／工業）など 5. 今の社会にある課題を踏まえて、さらに追及したい新たな学習問題をつくる。 ・少子高齢化が進んだらどんなことが起こるのかな。 ・今ある戦争が終わり平和な世界になってほしい。 未来の社会をよりよくするために、わたしたちができることや役割は何だろう。	○今まで調べたことや“きづぎもん”、My 歴史ノート（e ポートフォリオ）に触れながら、学習問題に対するまとめができるように説明する。 ○それぞれの観点が他の観点とどのようにつながっているのかを考えながら、学習内容をまとめていく。 ○歴史を学んだ目的に触れ、日本の未来について考えられるようにする。未来がもっとよくなるために、今ある現代社会の現状を考えさせる。 ○今の社会にはまだ解決できていない課題が多くあることに気付かせる。 ◇近現代の歴史学習を振り返り、考えてきた学習問題から新たな学習問題を見付けようとしている。 【主】ウ-②（ノート・発言・観察）
終 末 3 分	6. 本時の学習を振り返り、次時以降の学び方や内容に触れる。	○何をどんな形で調べ、共有し、発表したいのか、児童の次回以降の意欲を膨らませた終末となるようにする。

